

農村計画学会 第40回 総会

会場：オンライン (Zoom)

日時：2021年4月17日 (土) 12:45～13:15

総会次第

1. 開会

2. 学会長挨拶

3. 議事

1) 2020年度活動報告 (案) p.1 <資料1>

2) 2020年度決算報告書 (案)・監査報告 p.11 <資料2>

3) 2021年度活動方針 (案) p.15 <資料3>

4) 2021年度予算 (案) p.21 <資料4>

5) 報告

・電子ジャーナル「農村計画学会論文集」創刊とオンライン投稿システムの運用開始について p.22 <資料5>

4. 2020年度学会賞・奨励賞・ベストペーパー賞選考経過報告 p.23 <資料6>

5. 閉会

2020年度活動報告（案）

1. 総務委員会

- (1) 理事会（開催回数6回，その他メール審議）
 - 1) 会員入退会の承認
 - 2) 常置委員会・非常置委員会の活動状況の報告・検討・調整
 - 3) 総会議事の検討
- (2) 評議員会（開催回数2回）
 - 1) 学会運営の検討
 - 2) 総会議事の検討
- (3) 顧問会議（開催回数1回）
 - 1) 学会の活動状況全般についての意見交換
- (4) 総務委員会（Web会議1回，その他メール審議）
 - 1) 理事会及び評議員会運営の検討及び事務
 - 2) 学会ホームページの運営
 - 3) 学会メーリングリストの運営
 - 4) 学会誌色頁及び本会記事の運営
 - 5) 日本学術会議との連絡調整
 - 6) 日本農学会との連絡調整
 - 7) 日本農業工学会との連絡調整
 - 8) 国立情報学研究所との連絡調整
 - 9) 学術著作権協会との連絡調整
 - 10) 科学技術振興機構との連絡調整
 - 11) 関連団体が主催する会議への協賛等に係わる連絡調整
 - 12) 常置委員会等の連絡調整
 - 13) 投稿・査読システム等のオンライン化
 - 14) 業務効率化のためのHPの運用
- (5) その他
 - 1) 事務局運営など（プライバシーポリシー策定，大会等のオンライン化に伴う著作権関係の整理，新型コロナウイルスに関する対応，7月豪雨に関する対応）
 - 2) 慶弔対応（弔事一件：富田正彦名誉会員・元会長）

2. 表彰委員会

- (1) 各種学術表彰の推薦依頼への対応
- (2) 学会賞・奨励賞の募集，選考及び推薦

- (3) ベストペーパー賞の募集, 選考及び推薦
- (4) 上記選考にかかる委員会の開催
 - 1) 第1回選考委員会 2020/12/07, Web 会議
 - 2) 第2回選考委員会 2021/02/16, Web 会議

3. 編集委員会

- (1) 学会誌の発行

<39-1> (2020.6)

特集テーマ「漁村」(担当: 下田・野田)

※編集は第19期よりの継続

<39-2> (2020.9)

特集テーマ「オンラインコミュニケーション」(担当: 遠藤・栗田・鬼塚(ゲストエディタ))

<39-3> (2020.12)

特集テーマ「農村計画課題に迫る研究手法を磨く」(担当: 山下・法理・村上)

<39-4> (2021.3)

特集テーマ「東日本大震災から10年」(担当: 村上・栗田・柴田(ゲストエディタ))

※論文等(査読付き論文・報告)の学会誌掲載は, 39巻4号(2021.3)まで

- (2) 編集会議の開催(1-4号に合わせ, 年4回開催, 2時間程度)

第1回 2020/05/19 オンラインミーティング

第2回 2020/07/10 オンラインミーティング

第3回 2020/10/26 オンラインミーティング

第4回 2021/02/24 オンラインミーティング

- (3) 論文等オンライン化に伴う学会誌の状況整理と今後の方針の検討

- ・学会のアイデンティティ的存在として, 冊子体として継続する方針を確認した。
- ・オンラインを活用した議論の場づくりとそれらの記録等の新しい試みを実践した。

※38巻4号特集「地図」オンラインフォローアップトーク(2020年6月18日に開催)を参考

- (4) 他の委員会との連携・協力

- ・学術研究委員会: シンポジウム, 地区セミナー開催報告の掲載等
- ・災害対応委員会: 特集テーマ「東日本大震災から10年」(第39巻4号)
- ・低炭素特別委員会: 特集テーマ(第40巻2号)

- (5) その他

- ・学協会著作権ポリシーデータベースの見直し

4. 査読委員会

- (1) 論文・報告の審査
 - 1) 2020 年度論文特集号
 - 2) 学会誌 1 号から 4 号
- (2) 委員会の開催
 - ・すべてをメール会議および Microsoft Teams によって実施。
- (3) オンライン投稿システムへの移行に向けた各種対応

5. 学術研究委員会

- (1) 会議の開催
 - 第 1 回 2020/08/06 (Web)
 - 第 2 回 2020/11/19 (Web)
 - 第 3 回 2021/02/17 (Web)
 - 第 4 回 2021/03/09 (Web)
 - その他 メールによる会議 (8 回)
- (2) 大会の開催
 - 1) 春期大会
 - ※新型コロナウイルス (COVID-19) 感染拡大のため中止
 - 日 時： 2020 年 4 月 11 (土)
 - 会 場： 東京大学農学部 (弥生キャンパス) 弥生講堂
 - 日 程：
午前 学術研究発表会 午後 春期シンポジウム
大会実行委員会 委員長 牧山正男
 - 2) 秋期大会
 - 日 時： 2020 年 12 月 19 日 (土) ~12 月 20 日 (日)
 - 会 場： 宮崎大学
 - ※新型コロナウイルス (COVID-19) の影響によりオンライン (Zoom) での開催に変更
 - 日 程：
12 月 19 日 (土) 午前 学術研究発表会 午後 大会シンポジウム
12 月 20 日 (日) 午前 学術研究発表会 午後 学術研究発表会, 交流会
大会実行委員会 委員長 熊野稔 (宮崎大学)
学術研究発表者数： 15 名
※Zoom での参加者数： 常時 60 名程度 (最大で 80 名程度)
シンポジウム参加登録者数： 115 名 (会員 79 名, 非会員 24 名, 学生会員 12 名)
オンライン交流会： 18:00~20:30
※参加登録者数： 69 名

3) シンポジウムの開催

①農村計画学会 2020 年度特別シンポジウムの開催

※春期大会シンポジウム中止の代替措置

テーマ： 地元人材育成からの地方創生

日時： 2020 年 9 月 27 日（日）13：30～16：30

会場： オンライン（Zoom を使用）

開催形式： 東京都内（東京農工大学）と鳥取市（鳥取大学）の 2 拠点をメインにして Zoom を介した YouTube Live 配信で実施。質疑は YouTube のチャット形式でのみ受け付けた。

参加登録者数： 140 名（会員 56 名，非会員 75 名，学生会員 9 名）

趣旨説明： 筒井一伸（鳥取大学）

講演：

1. 農山村再生と高校魅力化
中村怜詞（島根大学）
2. 「地理総合」を通じた農村地域づくりの人材育成
宮地忠幸（日本大学）
3. 農業科目としての「地域資源活用（グリーンライフ）」
久保田豊和（静岡県立下田高校南伊豆 分校）
4. 大学における「農村計画学」教育
中島正裕（東京農工大学）
5. 日本都市計画学会における「地理総合」必修化に向けた取り組み
菊池雅彦（国土交通省／日本都市計画学会企画調査委員会）

パネルディスカッション：

パネラー 中村怜詞・宮地忠幸・久保田豊和・中島正裕・菊池雅彦

コメンテーター 中川秀一（明治大学）

コーディネーター 筒井一伸（鳥取大学）

質疑（チャット）対応 中塚雅也（神戸大学）

閉会挨拶

②秋期大会シンポジウムの開催

テーマ： 大学・地域連携のあり方を考える

日時： 2020 年 12 月 19 日（土）13：00～17：00

会場： オンライン（Zoom 及び YouTube 配信）

参加登録者数： 115 名（会員 79 名，非会員 24 名，学生会員 12 名）

第 I 部： 講演・事例報告

高千穂郷・椎葉山地域がつなぐ大学・地域連携

西 和盛（宮崎大学）

多様な主体による協働

世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会

地域に誇りをもつ人づくり

戸敷二郎（五ヶ瀬中学校校長）

バウンダリー・オブジェクトとしての世界農業遺産—関係価値の創造—

阿部健一（総合地球環境学研究所）

GIAHS 認定地の試行錯誤—実務者の課題と希望—

嶋田奈穂子（総合地球環境学研究所）

第Ⅱ部： 総合討論

コーディネーター 藤掛一郎（宮崎大学）

コメンテーター 中塚雅也（神戸大学）

4) セミナーの開催

※セミナーの名称について審議した結果、開催場所や形式にかかわらず、本年度より「農村計画セミナー」を基本名称とし、必要に応じて付記を加えることとした。

①農村計画セミナー（オンライン）「若手研究者によるオンライン研究発表会」

テーマ： 若手研究者によるオンライン研究発表会

日時： 2020年4月12日（土） 13：00～16：15

会場： Zoom によるオンライン開催（URL リンクを学会 HP 等でシェア）

プログラム：

開催挨拶・趣旨説明

鬼塚健一郎（京都大学）、一ノ瀬友博（慶應義塾大学）

話題提供

牛島 健（北海道総合研究機構）、栞原良樹（山形大学）、山田由美（慶應義塾大学）、羽場杉人（京都大学）、柴崎浩平（神戸大学）、東口阿希子（岡山大学）

全体討論&質疑応答

コーディネーター 青柳みどり

参加人数： 55名

②農村計画セミナー（オンライン）

テーマ： 農村における新型コロナウイルス感染症の拡大の影響に関する意見交換会

日時： 2020年6月6日（土）10：00～12：00

会場： Zoom によるオンライン開催（URL リンクを学会 HP 等でシェア）

プログラム： 既存の農業・農村関連調査について

今回の情報の概要

柴田 祐（災害対応委員会）

意見交換（司会進行 柴田祐）

まとめ、今後の方針

参加人数： 31名

③農村計画セミナー（オンライン）「ため池を活用したエコビジネスを考えるフォーラム」

テーマ： ため池を活用したエコビジネスを考えるフォーラム

日時： 2021年2月26日（土）17：30～20：00

会場： 東播磨フィールドステーション（加古川市神野町神野 690-1）

プログラム：

活動報告

「東播磨フィールドステーションのこれまでとこれから」

柴崎浩平（神戸大学大学院農学研究科 助教）

基調講演

「脱化石燃料時代のため池景観を考える」

長野宇規（神戸大学大学院農学研究科 准教授）

総合討論

パネリスト

池本廣希（いなみ野ため池ミュージアム運営協議会 副会長）

野村隆幸（兵庫南農業協同組合 代表理事専務）

内平隆之（兵庫県立大学地域創造機構 教授）

丹羽英之（京都先端科学大学バイオ環境学部 准教授）

井筒耕平（（株）sonraku 代表取締役/神戸大学 学術研究員）

ファシリテーター

中塚雅也（神戸大学大学院農学研究科 准教授）

参加人数： 78名（現場 34名，オンライン 44名）

5) その他

2020年度秋期大会のオンラインでの開催にともない、発表者と各セッションコーディネーターへのマニュアル（「発表者マニュアル」，「学術研究発表用録画マニュアル」，「座長マニュアル」）を作成

6. 企画委員会

- ・40周年記念事業の企画を委員会の主業務とすることを確認
- ・記念事業として、①記念シンポジウムの開催、②記念書籍（レビュー論文集）の発行、③大会リニューアル、を進める
- ・企画コンセプトとして、これまでとこれからを繋ぐ、現場との関係強化、他学会・団体との連携、を掲げ、過去10年を振り返り、今後の農村計画を展望することとした

(1) 記念シンポジウムの準備

- ・ 2022 年度春期をメイン、2021 年度秋期をプレとして連続実施する方針
 - ・ 企画委員会、大会実行委員会、災害対応委員会等と連携して実施する
 - ・ プログラムの詳細は、各委員会の担当者間で検討中
- (2) 記念書籍（レビュー論文集）
- ・ 2022 年 3 月発刊予定、編集委員：中塚雅也、山下良平、斎尾直子
 - ・ 公募による執筆者募集をおこなった結果、14 名の執筆者を決定
 - ・ 論文の質の向上と交流を目的に、執筆者（テーマ）毎にコメンテーターを依頼
 - ・ 執筆者会議の実施：2 回（9/25, 12/18）
- (3) 大会リニューアルの検討
- ・ 学術研究委員会と連携して検討
 - ・ 2022 年度春期大会を新しい形態の契機とする方向で検討を進めた

7. 国際委員会

(1) 会議の開催

第 1 回 2020/04/25 (Web)

第 2 回 2020/09/24 (Web)

第 3 回 2021/02/17 (Web)

他に分科会をいずれも Web にて 3 回実施（12/7, 12/24, 2/3）

(2) 農村計画学国際研究会の開催

COVID19 の影響を受け、2020 年度の日韓農村計画学会交流セミナーの開催を見送った。学会の国際化活動を停滞させないために代替的に、農村計画学国際研究会を下記の通りオンライン開催した。

日本や海外をフィールドとする研究者と海外の実務者による発表・情報交換等が行われ、互いに学びを得る意義深い議論が展開された。非会員の参加者の中には本国際研究会に強い関心を寄せる声もあり、英語での発表・情報交換の場を求めている潜在的な学会員のニーズをとらえるものであることがわかった。なお、本国際研究会の収録動画は学会 YouTube アカウントにアーカイブ保存し、発表者及び関係者にのみ限定公開する。

日 時： 2021 年 2 月 27 日（土）15：00～18：00

（うち、17：10～18：00 はオープン・ディスカッション）

会 場： オンライン（Zoom Live, 2 部屋パラレルセッション+テーマで分けた 4 部屋でのブレイクアウトセッションにおけるオープン・ディスカッション）

プログラム：

開会挨拶 一ノ瀬友博（会長）

セッション A（座長：井上果子）、発表数 7

テーマ 資源、暮らし、コミュニティ・デザイン、ツーリズム

セッション B (座長：西前 出), 発表数 3

テーマ 景観, 空間

セッション C (座長：ヨハネス・ヴィルヘルム), 発表数 4

テーマ 阿蘇プロジェクト

閉会挨拶 山路永司

オープン・ディスカッション

発表の内訳

①研究対象地別：日本 8, 中国 2, ベトナム 2, ミャンマー1, 豪 1

②発表参加地別：日本 9, 中国 (蘇州・北京：1 時間差) 3, ベトナム (2 時間差) 1,
オーストリア (8 時間差) 1

③筆頭発表者の会員種別：正会員 4, 学生会員 2, 非会員 (正会員の共同研究者又は潜在的な外国人特別会員関係者) 8

参加者数 (重複しない Zoom 視聴アカウントの合計)

全体・セッション A への参加者数 81 名, セッション B・C への参加者数 42 名

8. 災害対応委員会

- (1) 農村における新型コロナウイルス感染症の拡大の影響に関する緊急情報収集の実施
 - 1) 5/8(金), 5/14(日)に, 有志によるアフター・ウィズコロナ意見交換会を開催 (Zoom)
 - 2) 災害対応委員会が窓口となって農村における新型コロナウイルス感染症の拡大の影響に関する情報収集を実施
 - 3) 5/20 (水) に学会メーリングリストにより情報提供のお願いを送信 (5/31 (日) 〆切) し, 会員 9 名, 理事 5 名, 非会員 18 名の計 32 名から, 54 件の情報が提供された。
 - 4) 6/6 (土), 情報提供者を中心に意見交換会を Zoom にて開催, 31 名の参加
 - 5) 学会メーリングリストを通じて緊急情報収集結果を学会員に提供し, その後, 理事会の承認を得て 2020 年 9 月に新型コロナタスクフォースが設置され, 関連する議論はタスクフォースへ
 - 6) 災害対応委員会として参画 (柴田)
- (2) 災害対応委員会として柴田が特別編集委員に参画, 39 巻 4 号『特集東日本大震災から 10 年』
- (3) (一社)防災学術連携体への登録参加
一般社団法人防災学術連携体へ登録参加し, 防災連携委員として柴田と栗田理事 (農研機構) が務めることとなった。

9. 低炭素特別委員会

(1) 低炭素社会推進会議への参画と連携

第18回低炭素社会推進会議：2020年7月2日（木）オンライン

第19回低炭素社会推進会議：2020年10月12日（月）オンライン

第7回低炭素社会推進会議シンポジウム：2021年1月22日（金）オンライン

「コロナ禍での脱炭素型デザイン—建築，都市，農村地域での居住空間のあり方を問う—」

第20回低炭素社会推進会議：2021年3月23日（火）オンライン

(2) グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン全国大会への参加

主催者企画ミーティング「GIを軸とした都市と農村の新たな関係性の構築」

日時： 2020年11月8日（日）14：00～15：30

参加者： ピーク時101名

プログラム：

オープニング（解題，話題提供者の紹介）

一ノ瀬友博（慶應義塾大学）

話題提供：

「気候変動下における水田のグリーンインフラとしての機能」

吉川夏樹（新潟大学）

「農村地域におけるグリーンインフラの戦略的展開に向けた視点」

橋本 禪（東京大学）

「人新世／気候非常事態／大災害世紀に生き残るためのバイオリージョナルデザインは可能か」

糸長浩司（日本大学）

ディスカッション：

コメント 村上暁信（筑波大学），上野裕士（内外エンジニアリング(株)）

(3) 編集委員会との連携

農村計画学会誌第40巻2号特集テーマ：2021/03/26（初回Web会議）

10. 新型コロナタスクフォース

新型コロナタスクフォースは，新型コロナウイルス感染症拡大を受けて学会として対応すべきことと，ウィズ・アフターコロナの農村計画のあり方の両方を議論することを目的とし，理事会の承認を得て2020年9月に設置された。構成員は以下の19名である。一ノ瀬友博（とりまとめ），上野裕士，斎尾直子，九鬼康彰，柴田祐，岩崎亘典，落合基継（以上理事・監事）

白田裕，鈴木孝男，大和田順子，友渕貴之，青木佳子，田中伸彦，大塚生美，服部俊宏，栗原伸治，矢ヶ崎太洋，平瑞樹，上原三知（評議員，会員）

(1) 意見交換会の実施

2020年9月12日，9月27日，10月17日，12月4日，2021年2月1日

(2) 中間報告会の開催

日 時： 2020年12月12日(土) 13:00~17:30

会 場： オンライン

プログラム：

開会と趣旨説明

一ノ瀬友博

災害対応委員会としての活動

柴田 祐

日本の農業への影響

竹田麻里

森林・林業への影響 「新しい日常における森林活用の意向調査」の報告を中心に

田中伸彦・武田惇奨

都市近郊農村への影響

服部俊宏・上野裕士

with コロナ期における都市農村交流活動の事例(福島県いわき市)

大和田順子

コロナ禍における漁村集落の生活実態(気仙沼市大沢地区)

友渕貴之

コロナ禍での漁村における生活行動・交流の変化の事例(和歌山市加太)

青木佳子

島嶼における影響(与論町クラスターの事例)

平 瑞樹

コロナ禍での農村地域における調査のあり方

落合基継

都市と農村におけるコロナ禍でのストレス

上原三知

総合討論(司会 一ノ瀬友博)

参加者： 41名

農村計画学会 2020年度 決算報告書 (案)

(単位：円)

■収入の部

項目	予算	決算	予算との差
前年度繰越金	3,086,051	3,086,051	0
農村計画学会基金より繰入れ	0	0	0
学会費	6,800,000	6,004,208	-795,792
冊子販売 (学会誌)	0	14,360	14,360
冊子販売 (震災合本)	0	9,000	9,000
学会誌超過・カラー頁料	0	570,000	570,000
雑収入	100,000	106,214	6,214
合計	9,986,051	9,789,833	-196,218

■支出の部

項目	予算	決算	予算との差
総務委員会	200,000	89,890	-110,110
表彰委員会	500,000	132,883	-367,117
編集委員会	400,000	37,235	-362,765
査読委員会	300,000	0	-300,000
学術研究委員会	300,000	133,919	-166,081
企画委員会	200,000	0	-200,000
国際委員会	150,000	12,000	-138,000
災害対応委員会	200,000	0	-200,000
低炭素特別委員会	50,000	0	-50,000
学会将来構想等特別委員会	0	0	0
春期大会実行委員会	0	0	0
秋期大会実行委員会	300,000	109,896	-190,104
学会誌製作費	3,800,000	2,802,690	-997,310
学会誌発送費	640,000	505,951	-134,049
大会梗概集製作費	16,500	16,500	0
論文電子化費	408,000	342,000	-66,000
農業農村工学会現地研修会協賛金	50,000	0	-50,000
日本農学会分担金	74,400	74,000	-400
日本農業工学会分担金	55,000	55,000	0
事務委託費	1,200,000	1,153,405	-46,595
事務局経費	150,000	139,148	-10,852
サーバー管理費	20,000	9,220	-10,780
オンライン投稿システム	600,000	726,000	126,000
寄付	0	32,751	32,751
特別事業等積立金 (農村計画学会基金へ)	0	0	0
予備費 (次年度繰越金)	372,151	3,417,345	3,045,194
合計	9,986,051	9,789,833	-196,218

■農村計画学会基金

■収入の部

項目	予算	決算	予算との差
前年度繰越	4,000,000	4,000,000	0
特別事業積立金	0	0	0
合計	4,000,000	4,000,000	0

■支出の部

項目	予算	決算	予算との差
一般会計へ繰出し	0	0	0
次年度繰越	4,000,000	4,000,000	0
合計	4,000,000	4,000,000	0

■貸借対照表

資 産		負 債	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金	0	未払費用	856,644
普通預金	6,237,483	特別事業積立金	4,000,000
郵便振替	1,507,657	次年度繰越金	3,417,345
各委員会余剰金返金額	528,849	(前年度繰越金)	3,086,051
		(当年度剰余金)	331,294
合 計	8,273,989	合 計	8,273,989

■会計監査

会計書類を慎重に検討いたしました結果、会計処理が適切であると判断いたしました。

2021年 3 月 29 日

農村計画学会

監事

山崎寿一

監事

落合基隆



農村計画学会 財産目録

2021年2月28日

科目	摘要	金額
(資産の部)		
現金		0
普通預金	りそな銀行/目黒駅前支店	6,237,483
郵便振替 (会費)	ゆうちょ銀行	1,264,315
郵便振替 (論文)	ゆうちょ銀行	243,342
未収金	各委員会預り	528,849
資産合計		8,273,989
(負債の部)		
未払金		856,644
負債合計		856,644

2020年度収支決算結果について慎重に監査した結果、適正であることを認めます。

2021年 3 月 29 日

農村計画学会 監事

山崎 昇一 

監事

落合 基隆 

監査報告書

学会事務局より、2020年度決算報告書および関連資料に基づき、2020年度決算について説明を受け、監査を行った結果、会計処理は適正に行われているものと判断した。

なお、今後の学会運営に際して以下の点に留意されたい。

1. 新型コロナウイルス感染症の流行はいまだ終息にはほど遠い状況であり、学会大会や理事会、各委員会等の今後の活動においては、引き続き感染症予防に十分配慮をお願いしたい。

2. 新型コロナウイルス感染症の流行により学会運営及び学会活動のあり方も変化を余儀なくされた一方、オンラインの活用等今後の学会活動に取り入れるべきものの発見もあったかと考える。活用すべきものについてはアフターコロナにおいても積極的な活用の検討をお願いしたい。

3. 論文特集号発行および論文投稿のオンライン化等、諸々の改善をされているが、会員への丁寧な案内等の配慮をお願いしたい。

4. 会費収入は当学会の収入の大きな割合を占めており、学会が今後とも健全かつ活発に活動を展開していくために、会員数の維持・増加に向けた企画の検討等一層の努力を引き続き期待したい。

5. 一般会計とは別立ての農村計画学会基金について、健全な学会運営を継続していくため、基金の目的や使途、繰り入れなどのルールを会員に対して明確化するよう検討をお願いしたい。

2021年3月29日

農村計画学会 第20期監事 山崎寿一 

第20期監事 落合基継 

2021年度活動方針（案）

1. 総務委員会

- (1) 理事会（開催回数7回）
 - 1) 会員入退会の承認
 - 2) 常置委員会・非常置委員会の活動状況の報告・検討・調整
 - 3) 総会議事の検討
- (2) 評議員会（開催回数2回）
 - 1) 学会運営の検討
 - 2) 総会議事の検討
- (3) 顧問会議
 - 1) 学会の活動状況全般についての意見交換
- (4) 委員長会議
 - 1) 委員会運営の検討
- (5) 総務委員会
 - 1) 理事会及び評議員会運営の検討及び事務
 - 2) 学会ホームページの運営
 - 3) 学会メーリングリストの運営
 - 4) 学会誌色頁及び本会記事の運営
 - 5) 日本学術会議との連絡調整
 - 6) 日本農学会との連絡調整
 - 7) 日本農業工学会との連絡調整
 - 8) 農業農村工学会農村計画研究部会との連絡調整
 - 9) 国立情報学研究所との連絡調整
 - 10) 学術著作権協会との連絡調整
 - 11) 科学技術振興機構との連絡調整
 - 12) 防災学術連携体との連絡調整
 - 13) 関連団体が主催する会議への協賛等に係わる連絡調整
 - 14) 常置委員会等の連絡調整
- (6) その他
 - 1) 事務局運営など

2. 表彰委員会

- (1) 各種学術表彰の推薦依頼への対応
- (2) 学会賞・奨励賞の募集，選考及び推薦

- (3) ベストペーパー賞の募集, 選考及び推薦
- (4) ポスター賞の選考及び推薦
- (5) 上記選考にかかる委員会の開催
- (6) 表彰規程や細則に関する検討

3. 校閲委員会

- (1) 著者からの査読結果に対する問い合わせ(異議申し立て)への対応

4. 編集委員会

- (1) 学会誌の発行

<40-1> (2021.6)

特集テーマ「コロナ禍の都市農村交流」(担当:高田・野田・山下)

<40-2> (2021.9)

特集テーマ「検討中」

※脱炭素特別委員会との連携による企画

<40-3> (2021.12)

特集テーマ「スマート農業」(担当:田村・房安・栗田)

<40-4> (2022.3)

特集テーマ「学会40周年」(担当:法理・ゲストエディタ)

<41-1> (2020.6)

特集テーマ「構想中」(担当:下田・野田・田村)

- (2) 編集委員会の開催

学会誌1~4号に合わせて年4回程度開催

- (3) その他

取材調査旅費や文字おこし等, 編集・企画自体に予算を重点配分

5. 査読委員会

- (1) オンライン投稿システムの運用
- (2) 農村計画学会論文集への移行
- (3) 論文・報告の募集, 審査, 採否の判定
- (4) 投稿規程, 各種要領の変更への対応
- (5) 委員会内の役割分担の見直し(特に理事の役割分担)
- (6) ベストペーパー賞の推薦
- (7) 委員会の開催

6. 学術研究委員会

(1) 大会の開催

1) 春期大会

日 時： 2021年4月17日(土)

会 場： オンライン形式で実施

日 程：

午前 学術研究発表会 午後 春期シンポジウム

大会実行委員会 委員長 斎尾直子(東京工業大学)

2) 秋期大会

日 時： 2021年12月11日(土)～12月12日(日)

会 場： 岩手大学

日 程(予定)：

12月11日(土) 午前 学術研究発表会 午後 40周年記念プレシンポジウム

12月12日(日) 午前 学術研究発表会 午後 企画セッション

大会実行委員会 委員長 比屋根哲(岩手大学)

(2) シンポジウムの企画

1) 春期大会シンポジウム

テーマ： コロナ禍における農山漁村地域とウィズコロナの農村計画

日 時： 2021年4月17日(土) 13:30～16:30

会 場： オンライン (Zoomを使用)

プログラム：

開催挨拶及び趣旨説明： 一ノ瀬友博(農村計画学会長, 慶應義塾大学)

話題提供：

1. 人口動態と居住地選択意向の変化が農村に与える影響
服部俊宏(明治大学)
2. 市と農村の対比からみたコロナ禍でのストレスと行動変容
上原三知(信州大学)
3. 都市近郊農村における自治会の新型コロナウイルスへの対応
瀧下 咲・柴田 祐(熊本県立大学)
4. with コロナ期における都市農村交流活動(福島県いわき市「天空の里山」の事例)
大和田順子(早稲田大学)
5. コロナ発生から1年間の漁村集落の生活実態—気仙沼市大沢地区の事例—
友淵貴之(宮城大学)
6. 島嶼地域におけるパンデミックの影響
平 瑞樹(鹿児島大学)

パネルディスカッション：

パネラー： 服部俊宏・上原三知・瀧下 咲・大和田順子・友渕貴之・平 瑞樹

コメンテーター： 柴田祐・落合基継（早稲田大学）

コーディネーター： 齋尾直子（農村計画学会副会長，東京工業大学）

閉会挨拶： 上野裕士（農村計画学会副会長，内外エンジニアリング(株)）

2) 秋期大会シンポジウム（40周年記念事業）

テーマ： 「不確実性の時代の農村計画：これまでとこれから」（仮題）

日 時： 2021年12月11日（土）

会 場： 岩手大学

※企画委員会と災害対応委員会，学術研究委員会の共同企画

(3) 農村計画セミナーの開催

会員からの企画提案をもとに随時実施

(4) その他

春期ならびに秋期大会のあり方の検討（会員の大会参加促進，魅力ある大会運営）

7. 企画委員会

(1) 記念シンポジウム

- ・秋期大会を40周年のプレ記念大会として実施（大会実行委員会，災害対応委員会，企画委員会での共同企画）
- ・メインとなる2022年春のシンポジウム企画を関係委員会等と調整し進める

(2) 記念書籍（レビュー論文集）の発行

- ・5月草稿締め切り，11月最終原稿，1月初校，3月発行の予定で進める
- ・秋期大会でミニシンポジウム，農村計画セミナー等で中間発表の機会を設ける

(3) 大会リニューアル

- ・学術研究委員会と連携して検討

8. 国際委員会

(1) 特別国際シンポジウム（オンライン）の開催

1) 欧州

テーマ： **Rural Areas in Transition**（移行する農村部）

日 時： 2021年5月28日（金）17:30～20:30

企画趣旨： 近年農村部を含めて世界は過渡期にあり，COVID-19はその変化を加速し，あるいは方向付けたと言われる。今，西欧圏農村部では何が起きているのか。課題先進圏としての西欧から，数か国の論者による状況共有と考察を通して，転換するパラダイムを捉え，変化の先の新たな世界を展望する。

登壇者：

Prof. Francesco Di Iacovo (イタリア) ピサ大学, 農業経済学

農村部の社会機能調査を経て, 社会的農業, 市民的食ネットワーク等のアクションリサーチを行う。地域づくりにおいて大学の立場から市民, 行政と協働。

*テーマ (仮): 市民主体の農村部・縁辺部におけるコミュニティ・生活機能維持 (例: もう一つの welfare)

Prof. Bettina Bock (オランダ) ワーゲニンゲン大学, 農村社会学

農村部における反都市化やジェントリフィケーション等の研究を行う。EU 長期ビジョンの策定メンバー。Sociologia Ruralis (European Society for Rural Sociology の学会誌) の元編集長。

*テーマ (仮): アーバンゼーションと農村・都市の新たな概念, EU 次期農村ビジョン

Prof. Jeremy Phillipson (イギリス) ニューカッスル大学, CRE (Centre for Rural Economy), 農村開発

農村の企業に関する調査 (2016-2020) を経て昨年創設された NICRE (National Innovation Centre for Rural Enterprise) 代表に就任。

*テーマ (仮): 田園回帰の先進圏 英国の現在と農村経済 (農村企業育成) (例: もう一つの農村経済)

コーディネーター: 荘林幹太郎 (学習院女子大)

参加料: 無料

その他: 同時通訳 (英→日のみ) を予定。

2) アジア

日程 (案): 8~9月

テーマ (仮): アジア各国における, 昨今の農村環境の状況, アフター・ウィズコロナの農村計画について議論

(2) 日韓農村計画学セミナー

2021年度の開催の可能性について韓国側と協議しつつ検討予定。

(3) その他

1) オンライン国際研究会のフォローアップ, 成果物の出版の可能性模索

2) 中国都市計画設計院 (China Academy of Urban Planning & Design(CAUPD)) 交流セミナー

日時: 2021年5月18日 (火) 15:00~17:00 (Zoom)

内容: 一ノ瀬会長, 山下良平氏の講演を予定

9. 災害対応委員会

近年, 様々な災害が全国各地で発生しており, それらの災害への対応から得られた知見

を横断的にみながら、今後の農村の姿を展望することを目的として、以下の活動を行う。

- (1) 様々な災害をテーマとしたセミナーを開催，災害に強い地域づくりにむけて情報交換
- (2) 定期的に委員会を開催し，様々な災害への対応から得られた知見について意見交換
- (3) その他
 - 1) 新型コロナタスクフォース，40周年記念事業などとの連携

10. 脱炭素特別委員会

- (1) 脱炭素農村研究会セミナーの実施
農村計画学会誌第40巻2号 特集テーマと連携して開催
- (2) 低炭素社会推進会議への参画と連携（継続）

11. 新型コロナタスクフォース

- (1) シンポジウムの開催
2021年度農村計画学会春期大会においてシンポジウム（上掲）を開催する。
- (2) セミナー等の開催

農村計画学会 2021年度予算(案)

1. 一般会計

2021年4月17日

■収入の部

(単位:円)

項目	予算	前年度	前年度との差
前年度繰越金	3,417,345	3,086,051	331,294
農村計画学会基金より繰入れ	0	0	0
学会費	6,200,000	6,800,000	-600,000
冊子販売	0	0	0
雑収入	100,000	100,000	0
合計	9,717,345	9,986,051	-268,706

■支出の部

(単位:円)

項目	予算	前年度	前年度との差
総務委員会	250,000	200,000	50,000
表彰委員会	300,000	500,000	-200,000
編集委員会	400,000	400,000	0
査読委員会	300,000	300,000	0
学術研究委員会	300,000	300,000	0
企画委員会	200,000	200,000	0
国際委員会	500,000	150,000	350,000
災害対応委員会	200,000	200,000	0
脱炭素特別委員会	50,000	50,000	0
春期大会実行委員会	40,000	0	40,000
秋期大会実行委員会	300,000	300,000	0
40周年事業費	600,000	0	600,000
学会誌製作費	2,500,000	3,800,000	-1,300,000
学会誌発送費	550,000	640,000	-90,000
農村計画学会論文集製作費	600,000	0	600,000
大会梗概集製作費	16,500	16,500	0
論文電子化費	342,000	408,000	-66,000
農業農村工学会現地研修会協賛金	50,000	50,000	0
日本農学会分担金	74,000	74,400	-400
日本農業工学会分担金	55,000	55,000	0
防災学術連携体分担金	20,000	0	20,000
事務委託費	1,200,000	1,200,000	0
事務局経費	150,000	150,000	0
サーバー管理費	10,000	20,000	-10,000
オンライン等会議費	100,000	0	100,000
オンライン投稿システム	396,000	600,000	-204,000
特別事業等積立金(農村計画学会基金へ)	0	0	0
予備費(次年度繰越金)	213,845	372,151	-158,306
合計	9,717,345	9,986,051	-268,706

2. 農村計画学会基金

■収入の部

(単位:円)

項目	予算	前年度	前年度との差
前年度繰越金	4,000,000	4,000,000	0
特別事業等積立金	0	0	0
合計	4,000,000	4,000,000	0

■支出の部

(単位:円)

項目	予算	前年度	前年度との差
一般会計へ繰出し	0	0	0
次年度繰越	4,000,000	4,000,000	0
合計	4,000,000	4,000,000	0

電子ジャーナル「農村計画学会論文集」創刊とオンライン投稿システムの運用開始について

これまで農村計画学会では、査読付きの論文と報告（以下、論文・報告）を学会誌の1号から4号と論文特集号の計5冊に掲載してきました。学会誌39巻第2号でお知らせしたように、2021年4月よりすべての論文・報告を新たな電子ジャーナル「農村計画学会論文集」としてJ-STAGEにおいて即時公開することになりました。

これに伴って現行の投稿方法を見直し、2020年10月よりオンライン投稿システムの運用を開始しました。今後、農村計画学会へ論文・報告を投稿される場合は、すべてオンライン投稿システムを通じて行うこととなります。会員の皆様が研究成果を公表する場として、本システムと新たな電子ジャーナルの積極的なご活用をお願い申し上げます。

なお本システムの利用にあたっては、個々の論文・報告の責任著者によるユーザー登録が必要となりますので、ご注意ください。また現行のメールによる投稿は2021年度末（2022年3月31日）をもって終了し、2022年4月1日からはオンライン投稿システムに完全に移行する予定です。

オンライン投稿システムのトップページ

以下は、オンライン投稿システムのトップページのスクリーンショットです。ページの上部には「農村計画学会」のロゴと「Editorial Manager」のロゴが表示されています。中央には「Welcome to Editorial Manager® for 農村計画学会論文集 / JOURNAL OF RURAL PLANNING STUDIES」というメッセージがあります。右側には「日本語」の言語設定ボタンがあります。左側には「農村計画学会論文集」のロゴと「Journal of Rural Planning Studies」の英語表記があります。中央にはログインフォームがあり、「以下の情報を入力してください」という指示があります。フォームには「ユーザ名」と「パスワード」の入力欄があり、その下に「香者ログイン」「査読者ログイン」「編集者ログイン」「出版者ログイン」のボタンがあります。また、「ORCIDでログインする」のオプションがあり、「ORCIDとは?」のリンクがあります。さらに「パスワードを忘れた場合」「ユーザ登録」「ログインヘルプ」のリンクがあります。下部には「投稿者マニュアル」「査読者マニュアル」「編集委員マニュアル」「Author Manual」「Reviewer Manual」のリンクがあります。最下部には「Software Copyright © 2020 Aries Systems Corporation. Aries Privacy Policy | Publisher's Data Use Privacy Policy」という著作権情報が記載されています。

オンライン投稿システムのアドレス <https://www.editorialmanager.com/arp>

オンライン投稿システムに関する問い合わせ先：査読委員会

arp_submission@rural-planning.jp

2020年度 農村計画学会 学会賞・奨励賞・ベストペーパー賞

【学会賞（業績）】

山路 永司（やまじ えいじ） 会員（東京大学名誉教授）

「水田農業地域持続のための農村計画論の確立と国際展開への貢献」

震災復興から俯瞰する農村計画研究会

（しんさいふっこうからふかんするのうそんけいかくけんきゅうかい）

研究会メンバー：計 18 名

広田 純一（ひろた じゅんいち） 会員

山崎 寿一（やまざき じゅいち） 会員

糸長 浩司（いとなが こうじ） 会員

斎尾 直子（さいお なおこ） 会員

栗田 英治（くりた ひではる） 会員

一ノ瀬 友博（いちのせ ともひろ） 会員

原科 幸爾（はらしな こうじ） 会員

三橋 伸夫（みつはし のぶお） 会員

月舘 敏栄（つきだて としえい） 会員

沼野 夏生（ぬまの なつお） 会員

菊池 義浩（きくち よしひろ） 会員

中島 正裕（なかじま まさひろ） 会員

鈴木 孝男（すずき たかお） 会員

三宅 諭（みやけ さとし） 会員

藤沢 直樹（ふじさわ なおき） 会員

服部 俊宏（はっとり としひろ） 会員

山下 良平（やました りょうへい） 会員

山路 永司（やまじ えいじ） 会員

「連携と持続に着目した東日本大震災の復興に関する総合的農村計画研究」

【奨励賞】

該当なし

【ベストペーパー賞】

桑野 将司（くわの まさし） 会員（鳥取大学）

谷本 圭志（たにもと けいし） 会員（鳥取大学）

森山 卓（もりやま たく） 氏（鳥取大学）

「中山間地域における行政サービスから見た自動運転技術の導入可能性」

（第 39 巻論文特集号）

○会員数現況

種 別	会 員 数		増 減
	2020年 2月29日 現在	2021年 2月28日 現在	
名誉会員	27	26	△ 1
正 会 員	658	636	△ 22
学生会員	83	92	9
学生会員(外国人学生)	25	26	1
賛助会員	8	8	0
団体会員	20	20	0
購読会員	64	61	△ 3
合 計	885	869	△ 16

○農村計画学会会員数推移(2008年度～2020年度)

種 別	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	2009年 2月28日 現在	2010年 2月28日 現在	2011年 2月28日 現在	2012年 2月29日 現在	2013年 2月28日 現在	2014年 2月28日 現在	2015年 2月28日 現在	2016年 2月29日 現在	2017年 2月28日 現在	2018年 2月28日 現在	2019年 2月28日 現在	2020年 2月29日 現在	2021年 2月28日 現在
名誉会員	26	28	28	29	31	26	25	23	23	25	26	27	26
正 会 員	900	817	800	811	794	786	779	709	707	688	671	658	636
準 会 員*	172	141	125	127	116	120	135	105	111	107	80	83	92
外国人会員**	40	31	31	37	35	40	42	34	29	27	19	25	26
賛助会員	15	15	13	12	10	10	10	10	10	10	9	8	8
団体会員	19	19	18	18	20	20	18	21	21	21	21	20	20
購読会員	52	48	52	51	38	38	37	37	67	65	65	64	61
合 計	1224	1099	1067	1085	1044	1040	1046	939	968	943	891	885	869

*2019年度～学生会員

**2019年度～学生会員(外国人学生)